

【宮城県角田市】

校務DX計画

本市では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和3年度から市内全ての小・中学校で1人1台端末（タブレット端末）を導入し、通信ネットワークの構築やクラウドサービスの積極的な活用等、児童生徒一人ひとりがSociety5.0時代を生き抜く力を育むために必要な環境を整備してきた。

教職員においてもICTの活用を進めているが、学校現場においては依然として紙の資料や従来型の業務が多くみられ、今後の校務の円滑化・効率化の観点から、さらなる校務DXを進めていく必要がある。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、以下の取組や検討を行い、校務DXを進める。

1. 校務系及び学習系ネットワークの統合及び統合型校務支援システムの導入

現在の本市における教育系ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」と児童生徒が学習活動で利用する「学習系」の2つに分離しており、相互にアクセス等ができない構成としている。今後は、ゼロトラストセキュリティの考え方を踏まえたセキュリティ対策を十分に講じた上で、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、先進自治体の事例等を参考にしながら、校務系・学習系のネットワーク統合について検討を進める。

また、現在本市で導入していない統合型校務支援システムについては、学校現場からの要望もあり優先的な懸案事項となっている。教職員の校務負担軽減や教職員間のコミュニケーションを迅速化・活発化できる環境を構築するため、前述の校務系・学習系のネットワーク統合に併せて統合型校務支援システムを導入するよう検討を進める。

2. GIGA環境及びクラウドサービス等の積極的活用

本市の小・中学校では全ての教職員に個人アカウントが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用できる環境にある。教職員間及び教職員と児童生徒間でのデータ共有等、多くの学校でクラウドサービスを活用している。一方、学校と保護者間においては活用が進んでいない現状のため、各学校におけるクラウドサービスの対象が保護者等にも広がるよう、先進事例の紹介等により支援を行う。

3. FAX・押印等の従来型の業務の見直し及びペーパーレス化の推進

FAXについて、災害時や教育系ネットワークの不具合時等、FAXの方が効率的となる場合を除き、原則廃止に向けた継続的な働きかけを行う。押印についても内規の改正を行う等、ルールの見直しを図る。

ペーパーレス化については、校内の職員会議や教育委員会主催の会議等において、会議資料を共有データとして閲覧することにより取組みを進めているところではあるが、庁内で電子決裁が導入されることも踏まえ、より一層のペーパーレス化を推進する。